

『授業力』自己診断シートで授業力の向上を!



子供たちの学力向上に不可欠な教師の「授業力」の向上のためには、教師一人一人の授業の状況や在り方について把握し、課題を明らかにし、改善していくことが必要です。それでは、「授業力」をどのように把握すればよいのでしょうか。そこで、県立総合教育センターでは、『授業力』自己診断シート』を作成し、研修会等を通じて提供しています。

この『授業力』自己診断シート』は、一つの例であり、各学校、各教科等の実情に応じて適宜修正して活用いただくものです。普段の授業を振り返り、授業を改善するために御活用ください。ここでは、次の4つの要素に分けて解説しています。

- <要素1> 学習環境を整える力及び学びに向かう学習集団を形成する力
- <要素2> 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業を構想する力
- <要素3> 授業を実践する力
- <要素4> 学習評価の充実

※なお、この図解は4要素を捉え直したものです。4つの要素は、お互いにリンクし合っています。授業を構想し、実践し、学習評価を行う中で授業改善を行うサイクルで授業力を向上させます。



教師の「授業力」向上で学力向上を



教師は授業で勝負する

学力の向上には教師の「授業力」の向上が不可欠です。新たに告示された次期学習指導要領は、

学校で学んだことが、子供たちの「生きる力」となって、明日に、そしてその先の人生につながってほしい。これからの社会が、どんなに変化して予測困難な時代になっても、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、それぞれに思い描く幸せを実現してほしい。そして、明るい未来を、共に創っていきたい。

『文部科学省 新学習指導要領 改訂に込められた思い』

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1383986.htm#section3

という思いを込めて改訂されました。児童生徒一人一人が、そのような資質・能力を身に付けられるように以下の点について言及しています。

今回の改訂においては、次項のとおり、言語能力、情報活用能力、問題発見・問題解決能力等の学習の基盤となる資質・能力や、豊かな人生の実現や災害等を乗り越えて次代の社会を形成することに向けた現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を、教科等横断的な視点に立って育成することを規定している。

『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編』平成29年7月 46頁

また、各教科等においても、当該教科等の指導を通してどのような資質・能力の育成を目指すのかを、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱に沿って再整理し、当該教科等の目標及び内容として明確にしている。

『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編』平成29年7月 46頁

とあります。

学習の基盤となる資質・能力

- ① 言語能力
- ② 情報活用能力
- ③ 問題発見・解決能力等

どのような資質・能力の育成を目指すのか

- ① 知識及び技能が習得されるようにすること。
- ② 思考力、判断力、表現力等を育成すること。
- ③ 学びに向かう力、人間性を涵養すること。

『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編』（2ページ）（1）改訂の経緯の中では、

…「社会に開かれた教育課程」の実現を目指し、学習指導要領が、学校、家庭、地域の関係者が幅広く共有し活用できる「学びの地図」としての役割を果たすことができるよう、次の6点にわたってその枠組みを改善するとともに、各学校において教育課程を軸に学校教育の改善・充実の好循環を生み出す「カリキュラム・マネジメント」の実現を目指すことなどが求められた。

- ① 「何ができるようになるか」（育成を目指す資質・能力）
- ② 「何を学ぶか」（教科等を学ぶ意義と、教科等間・学校段階間のつながりを踏まえた教育課程の編成）
- ③ 「どのように学ぶか」（各教科等の指導計画の作成と実施、学習・指導の改善・充実）
- ④ 「子供一人一人の発達をどのように支援するか」（子供の発達を踏まえた指導）
- ⑤ 「何が身に付いたか」（学習評価の充実）
- ⑥ 「実施するために何が必要か」（学習指導要領等の理念を実現するために必要な方策）

『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編』平成29年7月 2頁

というように、カリキュラム・マネジメントの実現を目指すことが求められています。

- ① 「何ができるようになるか」
- ② 「何を学ぶか」
- ③ 「どのように学ぶか」
- ④ 「子供一人一人の発達をどのように支援するか」
- ⑤ 「何が身に付いたか」
- ⑥ 「実施するために何が必要か」

以上のような改訂の内容を踏まえた「授業力」の自己診断と改善を行うため、今回改訂した「授業力」自己診断シートを活用してください。

【参考】前回の「授業力」自己診断シートを作成した際にマニュアルに掲載した引用です。

教育の専門家としての確かな力量

「教師は授業で勝負する」、この力量が「教育のプロ」のプロたる所以。

具体的には、子供の理解力、児童・生徒指導力、集団指導の力、学級づくりの力、学習指導・授業作りの力、教材解釈の力などからなるものと言える。

中教審答申H17.10.26『新しい時代の義務教育を創造する』19頁

○これからの教員に求められる資質能力

(ii) 専門職としての高度な知識・技能

- ・教科や教職に関する専門的知識
- ・新たな学びを展開できる実践的指導力
- ・教科指導、生徒指導、学級経営等を的確に実践できる力

中教審答申H24.8.28『教職生活の全体を通じた教育の資質能力の総合的な向上方策について』2頁

「授業力」自己診断シート

分類	具体項目例	合計
学びに向かう学習集団を形成する力	<input type="checkbox"/> 児童生徒に、笑顔で快活にあいさつをしたり話しかけたりしている。 <input type="checkbox"/> 児童生徒の意見や提案に耳を傾けている。 <input type="checkbox"/> 学習活動に意欲を持って参加している。 <input type="checkbox"/> 児童生徒の発問や発言に適切に反応している。 <input type="checkbox"/> 開始時刻と終了時刻を適切に把握している。 <input type="checkbox"/> 学習の準備が整っている。 <input type="checkbox"/> 発言の仕方が適切である。 <input type="checkbox"/> 全員の聞き取りが確保されている。 <input type="checkbox"/> 教師自らも積極的に発言している。 <input type="checkbox"/> 児童生徒一人一人の発言が聞かれている。 <input type="checkbox"/> 校内環境美観が保たれている。 <input type="checkbox"/> 計画的・意図的に授業を進めている。 <input type="checkbox"/> ユニバーサルデザインが活用されている。 <input type="checkbox"/> 学習集団の協働が促されている。 <input type="checkbox"/> 児童生徒と教師の協働が促されている。 <input type="checkbox"/> 学習指導及び評価が適切に行われている。 <input type="checkbox"/> 児童生徒の発達状況や学習状況を把握している。	
「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業を構想する力	<input type="checkbox"/> 研修等で得た教科等に関する専門的な知識を生かし、教材研究をしている。 <input type="checkbox"/> 学年会や教科部会などで教科指導に関する情報交換等を行い、授業に生かしている。 <input type="checkbox"/> 地域の人的・物的教育資源を積極的に授業で活用している。 <input type="checkbox"/> 単元全体を見渡し、本時のねらいを設定している。 <input type="checkbox"/> 単元のねらいが明確である。 <input type="checkbox"/> 学習のねらいが明確である。 <input type="checkbox"/> 単元全体のねらいが明確である。 <input type="checkbox"/> 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業構想（個別、ペア、グループ、班、学級）が明確である。 <input type="checkbox"/> 知識及び技能の活用が図られている。 <input type="checkbox"/> それぞれの児童生徒の学びを深めようとしている。 <input type="checkbox"/> 児童生徒の学びの深まりが確認されている。 <input type="checkbox"/> 思いや考えが共有されている。 <input type="checkbox"/> 児童の興味・関心を喚起している。 <input type="checkbox"/> 情報を活用している。 <input type="checkbox"/> 育成を目指す資質・能力を明確にし、授業に活用している。	
授業を実践する力	<input type="checkbox"/> 学校図書館を、読書センター・学習センター・情報センターとして利活用している。 <input type="checkbox"/> 声の大きさや話す速さを適切にし、分かりやすい説明をしている。 <input type="checkbox"/> 児童生徒の反応や変容に気づき、質問や意見を取り上げ、授業展開の中に生かしている。 <input type="checkbox"/> 児童生徒の活動場面を確保し、主体的に学習に取り組むことで達成感を得られるよう配慮している。 <input type="checkbox"/> 自力解決の場面やつぶやきなどから、つまづきを早期に発見し、児童生徒一人一人に適切な指導を行っている。 <input type="checkbox"/> 児童生徒の学びの深まりが確認されている。 <input type="checkbox"/> 課題や問いが明確である。 <input type="checkbox"/> ICT機器が活用されている。 <input type="checkbox"/> 児童生徒の発問や発言が適切である。 <input type="checkbox"/> 板書の内容が適切である。 <input type="checkbox"/> 漢字の筆順が適切である。 <input type="checkbox"/> 本時のねらいが明確である。 <input type="checkbox"/> 児童生徒の学びの深まりが確認されている。	
学習評価の充実	<input type="checkbox"/> 児童生徒の学びの深まりが確認されている。 <input type="checkbox"/> 児童生徒の学習意欲が向上している。 <input type="checkbox"/> 学習評価の充実が図られている。 <input type="checkbox"/> 学習評価等	

「分類」の中から、どの項目を重点的に取りあげるか、校内研修のテーマとしてもよいでしょう。
 ・各「分類」の項目についても必要に応じてそれぞれに適するよう選択をしてもよいでしょう。
 ・このまま使っていただくことも可能ですが、学校ごとのオリジナルシートを作成することもできます。

「『授業力』自己診断シート」は管理職等の教室訪問(授業参観)に活用することができます。
 ・年度当初の「自己申告シート」の「教科指導」の目標設定内容(校長の設定した目標と連鎖しているもの)を授業参観時に参加者と授業者の共通の内容としていくことがポイントです。
 ・シートを作成すること自体が研修になります。

「『授業力』自己診断シート」は、学校種、教科等の枠を超えて使用できるように作成したものです。
 ・各学校等で必要な修正を加えながら、御活用ください。
 ・また、教師一人一人が、自己の「授業力」を振り返り、見直すためのツールという意味でタイトルを「『授業力』自己診断シート」としましたが、各学校において管理職による授業観察や教師相互の授業力向上校内研修等でも是非とも御活用ください。